

平成26年10月28日(火)、平成26年度第1回内灘町学校給食共同調理場運営委員会を開催しました。内容は下記のとおりです。

平成26年度第1回内灘町学校給食共同調理場運営委員会会議要旨

- 1 会議の日時及び場所
平成26年10月28日(火)午後7時30分～8時30分
内灘町役場 3階 301・302会議室
- 2 出席委員(13名)・教育長
田村兼人委員長、政岡裕之委員、松浦 清委員、山本桂一委員、奥村豊美委員、桐山一人委員、近岡真理子委員、長谷川 肇委員、渡邊毅委員、宮前貴男委員、山本政栄委員、磯貝幸博委員、本 弘美委員・久下教育長
- 3 欠席委員(3名)
北川壯一郎委員、船本和伸委員、谷口秀輝委員
- 4 事務局
北川教育次長、
島田学校給食共同調理場所長、澤野井栄養教諭
- 5 会議概要
委員長挨拶(略)

学校給食について

- 報告 1 平成25年度学校給食費、施設管理費決算について
2 平成26年度学校給食費、施設管理費予算について
3 平成26年度 給食費未納状況について
- 議題 1 平成27年度から、学校給食用供給牛乳を内灘産100%とすることを希望する要望書の提出について

- 6 会議内容
事務局より、現在の学校給食の概要について説明し、報告事項1.2の平成25年度決算、平成26年度予算について報告。また、平成26年度滞納状況を報告。

議件1 平成27年度から、学校給食用供給牛乳を内灘産100%とすることを希望する要望書の提出について

◇事務局説明

学校給食法中、学校給食において地産地消を活用し、食を通じ地域の食文化や産業、自然の恩恵に対する理解の増進を図るよう努めることと指導があり、野菜類は地元・県内産を可能な限り取り入れている。また、学校給食用牛乳も県内産牛乳100%を使用し学校給食会を通じ、供給されているが、内灘町では、酪農が行われ、県内トップの生乳生産量を誇り、現在、地元産の牛乳について、町は地域や地場産業の活性化のため商工会とともに消費拡大をめざしている。

学校給食においても、このことを踏まえ、地産地消の食育の観点から、県給食会に対し供給牛乳を内灘産100%とすることを希望する要望書の提出をしたい。

質疑応答

委員 供給牛乳全体を指すのか。

事務局 県内自治体の中にも酪農が行われており、この要望は、内灘町に供給される学校牛乳のみを指すもの。

委員 提供できる業者は、また、要望が叶えられるのか。

事務局 現在、供給業者は3社で、そのうち1社のみが内灘産100%を提供できると聞いているが学校給食牛乳の供給については、県が国の事業により安定した供給や保護者負担額の軽減を図る為、入札を行い県下統一価格にて供給している関係上、確実に希望が通ることは難しい。ただ、町でミルク王国キャンペーンをし、需要促進する中、町の子どもたちが地元産100%牛乳を飲んでいないことは対外的にも、地産地消の食育の観点からも相対する思いから学校給食会に対し内灘町の思いを伝えるために要望書を提出するもの。

委員 27年度、要望が叶えられなくても叶えられるまで行えば良いと思う。

事務局 ご意見のとおり行う一方、今後、県、関係機関などに働きかけを行ってゆく。

委員 牛乳変更についての周知は。

事務局 2月末に入札が行われ、3月に供給業者が決定されるため、通知が届き次第、学校に連絡をし、保護者には出来るだけ早くお知らせする。

委員全員 提出に異議なし

その他 給食費の状況について

委員 滞納保護者はなぜ支払わないのか。

事務局 経済的に困難な家庭が多く、給食の提供について不満を持って支払いを拒否している方は居ない。町からの各種諸手当支給時に面談の機会を得て、納付勧奨等を行っている。